

第1工区（北西部分）の調査が終了しました。

8月より実施していた松東遺跡第1工区（北西部分）の発掘調査が10月上旬に終了しました。弥生時代後期（今から約1900年前）の集落跡を中心に、奈良～鎌倉時代の遺構・遺物も確認することができました。中でも特筆すべきは銅鐸の破片が出土したことです。過去の調査で飾り耳の破片が出土しているのので、松東遺跡での発見は2例目となります。

銅鐸が出土したことで、急遽9月15日（土）に現地説明会を開催しましたが、暑い中550人もの方にお越しいただき、TVでも放映されました。地域の皆さんの関心の高さと、銅鐸人気の強さを垣間見たような気がしました。



第1工区 全景（北から）



銅鐸の出土状況



現地説明会の様子

浜松と銅鐸

銅鐸は弥生時代のお祭りに使われた鐘で、弥生人にとっては最も大切に貴重な祭器です。

浜松市は、日本列島内で銅鐸が分布する最も東の地域にあたり、市内では完全な形の銅鐸20点（所在不明4点を含む）をはじめ破片5点（今回例を含む）の出土が知られています。全国的に見ても銅鐸が数多く出土する地域といえるでしょう。

完全な形での銅鐸の出土状況
（北区細江町 滝峯才四郎谷遺跡）銅鐸飾り耳破片
（松東遺跡過去の調査）

